

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 化学・ナノ構造カップリングの解明に資する対話型分析技術の創成
2. 研究代表者： 高橋 康史（名古屋大学 大学院工学研究科 教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題では、研究代表者がこれまで培ってきたナノピペットによる分子レベルの刺激技術や、生細胞イメージングのノウハウを活用して、センシングと刺激を印加できる新しい技術の走査型プローブ顕微鏡技術の開発を目指している。フェーズ1では、走査型イオンコンダクタンス顕微鏡（SICM）を改良し、様々な応用を実施していることは高く評価できる。また、ピペット技術の改良も行い、オルガネラレベルの分析・回収など多方面に成果を上げており当初計画以上の研究を遂行した。フェーズ2では、フェーズ1の成果を元にバイオ系だけでなく、触媒分野についても、独自の分析技術を応用する提案がなされており、その方向性も明確である。今後も他の研究者と効果的な共同研究を実施し、当初の計画を超えるような成果をあげることに期待する。

以上